



受賞を喜ぶ安藤さん（左）と富田市長

長年の活動称えられ

10月26日に、老人クラブ育成功労者等厚生労働大臣表彰を受賞した安藤美喜子さんが富田市長に報告しました。安藤さんは可児市老人クラブ連合会の活動に役員として15年以上携わり、同連合会の発展向上に努めた活動が称えられました。

安藤さんは活動を振り返り、「会員のみんなが健康で笑顔で過ごせればという思いでやってきた。今後も活動を続けていきたい」と力強く話してくれました。

地元企業の魅力満載

10月28、29日の2日間にわたり、文化創造センター・アールで産業フェアが開催され、多くの来場者でにぎわいました。今年は市内を中心に、近隣市町村の企業も含め100の企業や団体が出展し、自社商品を紹介。また今年初めて開催した、可児市のおみやげコンテストの表彰式も行いました。

訪れた人たちは地元企業の個性あふれる商品に目を引かれながら可児市の産業の魅力を感じていました。



ブースを見学する来場者



癒しのコンサートに耳を傾ける参加者

みんなで楽しく集える憩いの場

11月1日に老人福祉センター可児川苑で高齢者サロンを開催しました。可児市健友連合会の協力で、市内在住のおおむね60歳以上の独り身の人が気軽に参加できる憩いの場になるよう企画されました。

今回は講話とギターのコンサートの後、グループごとにお茶を飲みながら交流を深めました。今後も毎月1度、懐かしい歌を歌ったり室内で軽スポーツをしたりと楽しい企画を予定しています。

異文化交流 楽しいな

11月5日にフレビアで多文化共生フェスティバルが開催され、今年のテーマ「カーニバル・リトルワールド」のとおり、国籍を問わずたくさんの方が訪れました。

会場には各国の文化を楽しめる屋台やグルメなど、さまざまなブースが登場。さらに市内のダンス教室の生徒が、南米で流行中のズンバというダンスも披露しました。フェスティバルに参加した人たちは、気持ちよく晴れた青空の下で異文化交流を楽しんでいました。



ズンバを楽しむ人たち

山城の魅力を紹介

市内に残る山城の魅力を紹介するイベント「山城に行こう！2017～センゴクの城～」を10月21日、22日に開催しました。

可児市山城連絡協議会と市が主催し、山城でガイドなどを受けられる城めぐり企画、文化創造センター・アールでのトークショーや忍者体験、チャンバラ合戦などを実施。

トークショーには春風亭昇太さんや漫画「センゴク」作者の宮下英樹さん、滋賀県立大学教授の中井均さん、日本城郭協会理事の加藤理文さんらが登壇。それぞれがお気に入りの城や特徴などを紹介した他、漫画「センゴク」の場面を見せながら、城の実戦的な仕掛けを説明しました。

また会場には戦国にちなんだグルメ、周辺の城を紹介するブースなども並び、大勢の来場者でにぎわいました。



全国から約500人が集まったトークショー



さまざまなブースが並んだ会場



不審者の特徴を確認する児童

不審者に気を付けよう

10月25日に広見小学校で連れ去り防止教室が行われ、1年生が不審者から身を守る方法を学びました。

講師の可児警察署員による紙芝居や実演では、普段の生活を想像しながら危険な場所や帰宅時間、不審者に出会った際取るべき行動などを確認しました。また、連れ去られそうなどときには大声で「助けて！」と叫ぶなど、児童たちはいつでも自分の身を守れるように、一生懸命練習していました。

ふるさとの歴史と思いやりの心

10月25日、西可児中で茶道連盟から講師を迎え、お茶講習会が行われました。自分たちの暮らす可児市の歴史や文化を学んでふるさとの良さを知ってもらうもので、1年生が数回にわたってお茶を点てるときの作法、可児市と茶道の関わりなどを教わります。

講習会では茶道の基本である相手を敬う心、思いやりについても説明。生徒は背筋をしっかりと伸ばし、真剣な面持ちでお茶を点てました。



お茶を点てる生徒